

継続事業評価シート

評価実施日 令和4年3月31日

令和3年度(5年目)

事業コード		26	事業名	一次産業者等の事業化促進事業			戦略コード	3	戦略名	事業者が主役の商工会
担当部名	事業振興部		担当課名	経営支援課	担当課長名	佐藤大輔	施策コード	13	施策名	実効性の高い会員加入促進運動の推進

【事業内容】

1. 事業実施当初の背景

会員数の減少に歯止めがかからず、商工会の組織力低下が懸念されている中、会員増強による組織基盤の強化につながる取組が求められている。

2. 事業のねらい

経営形態が多様化してきている中で、一次産業者の商業分野への進出を促し、商工会への加入対象者の増大を図る。

3. これまでの評価結果

過年度	H29	-	H30	C	R1	B	R2	B
-----	-----	---	-----	---	----	---	----	---

コロナ禍において取組が限定される場面もあったが、県連会報やFacebookページ、プレスリリースに通じて、一次産業者に対する商工会のPRを行うことにより、当該地区商工会のアプローチのしやすい環境を整えた。

4. 昨年度の評価(対応方針)に対する対応

一次産業者の商業分野への進出を促し、商工会への加入対象者の増大を図っていくためには、組織間の連携が重要となることから、県域農業団体等と相互に有効な農業者等への支援策について、協議・検討する場を設ける。

【取組評価】

取組コード	取組	実績	必要性	有効性	効率性	総合評価
63	新規会員加入につなげる新分野(農業等)への経営支援の強化	各種支援施策や好事例の情報提供を行っているが、大きな成果にはつながっていない。	a	c	a	B
64	既存会員の商工会活用度の向上	HPやFacebookページ、プレスリリースにより商工会のPRを図っているが、満足度調査等を実施していないため定量的な成果は見えない。	a	b	a	B

評価指標と実績 達成度: a(達成率が100%以上)、b(100%未満80%以上)、c(80%未満)

取組コード						取組コード						取組コード					
指標名						指標名						指標名					
年度	H29	H30	R1	R2	R3	年度	H29	H30	R1	R2	R3	年度	H29	H30	R1	R2	R3
目標						目標						目標					
実績						実績						実績					
達成率						達成率						達成率					
達成度						達成度						達成度					

【事業評価】

1. 3つの観点からの評価

【必要性の観点】現状の課題に照らした妥当性

〈評価の理由〉

組織の基盤強化を図っていくという課題に対して、一次産業者の商業分野進出を促し、商工会へ新規加入させていくことは重要な取組であることから、事業の必要性は高い。

【有効性の観点】 事業目標の達成状況 【取組評価】の有効性が a(すべてa判定の場合) b(a,c以外の場合) c(c判定6割以上の場合)

〈事業の目標は達成されているかどうか〉

各種支援施策や好事例の情報提供を行っているが、その成果を把握する仕組みが整っていないため、有効性の判断が難しい状況にある。

【効率性の観点】コスト(金銭・時間・人材)縮減のための取組状況 【取組評価】の効率性が a(すべてa判定の場合) b(a,c以外の場合) c(c判定6割以上の場合)

〈コスト縮減に向けた具体的な取組内容または取り組んでいない理由〉

各種支援施策や好事例の情報提供に基づくアプローチを行うことで、商工会で実施する取組の効率化が図られているとともに、SNS等の活用による情報発信により時間と経費のコスト削減につながっている。

2. 総合評価・理由 A(順調)3つの観点の評価結果がすべてa判定の場合 B(概ね順調)A、C以外の場合 C(改善が必要)3つの観点の評価結果がc判定2つ以上の場合

3. 課題

一次産業者等に対し、事業化に向けた支援事例や商工会活動の成果を紹介し、プロモーションを強化する仕組みが必要である。また、関係機関と連携を強化しながら、一次産業者等へアプローチしやすい環境整備を行うことも必要である。

4. 今後の対応方針(改善点)

一次産業者の商業分野への進出を促し、商工会への加入対象者の増大を図っていくためには、組織間の連携が重要となることから、JA秋田中央会や(社)農業公社といった農業団体等と協議する場を設け、有効な農業者等への支援策について検討していく。